

戸田良直・道子夫妻の日本画展

大垣市郷土館が所蔵する、戸田良直・道子夫妻の日本画を紹介いたします。ご夫妻の長女の宮田佳子さんから、「郷土館の展示資料として活用してほしい。」と、35点の作品が寄贈されています。今回は、その中から26点を展示しています。芙峰流による日本画をごゆっくりご鑑賞ください。



昭和40年5月 第16回春秋会展〔戸田良直・道子画集より〕

戸田良直(1895~1971)・道子(1902~1992)

戸田良直氏は、元大垣共立銀行取締役。大垣藩最後の家老である戸田鋭之助の二男。

戸田道子氏は、洋画家の故・矢橋六郎氏の姉。

良直氏が銀行を退職後、夫妻で本格的に日本画に取り組むようになり、水墨画のような、にじみ絵の技法である「芙峰流」（渥美芙峰氏に師事）による作品を多く残しました。

戸田良直

戸田道子

桜鯛	唐三彩
胡瓜	赤絵の壺に花
蓮根	染付鉢にりんご
ほおずき	赤絵八寸に三宝柑
壺に三宝柑	植木鉢に果物
青銅	アナナスと桃
唐三彩	カトレア
洋蘭	アイリス
飛騨秋景	黄葉
若葉の金華山	花 ホークシア
鞍馬	柿
伊豆の山	パインアップル
秋の景色	葉鶏頭

芙峰流

渥美芙峰氏（1893〜1973 山梨県河口湖町出身）が戦後に考察した独特の手法。ゆっくりと墨をにじませながら描いた、墨絵ばかりのような味わいが特徴。

『戸田良直・道子画集』（1985年1月発行）編集後記より抜粋

長い間絵が描きたかった父と、絵が描けるとは思ってもみなかった母とが、芙峰流の絵に出会い、そしてこの絵に惹かれて集った方々と共に、父は15年余を、母は今もなおこの絵で遊びつづけています。

昭和43年中日ビルで開いた、11回目の夫妻画展の折の、中日新聞の切り抜きが母の手許に残ってありました。その中で父はこんなことを云っております。

「私たちは、めいめい好きなように描いているだけです。妻の絵の方がいい、という人もたくさんいます。奥さんの絵がほめられるとお気に召さぬ方もあるようですが、私にはそんな気持ちはありませんね。二つ合わせて一つの絵と思っているんです。」
(戸田正直・宮田佳子・竹本具子)

